自己評価シート

（幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく）

作成日	令和７年　３月２６日
園　名	幼保連携型認定こども園くるみこども園
園長名	牛島　周次

1．本園の教育・目標

周りの自然の四季のうつろいを感じ、互いに思いやりを持ち、互いに協力し合う子どもを育むことを重視する。この教育・保育を目標を達成するための以下の事項を導入している。 ○「４つの火」（「やさしさの火」「がんばりの火」「思いやりの火」「たくましさの火」） ○縦割りクラス ○モンテッソーリ教育

2．くるみこども園自己評価

【評価項目】

A	十分達成している（十分できている）
B	ほぼ達成している（できている）
C	検討を要する
D	改善を要する

カテゴリ	評価項目	評価	備考欄
園の基本姿勢	園の教育・保育理念や目標及び重要事項を理解しているか	A	評価「C」の項目について なるべく園児一人一人に合わせてやっているつもりだが、保育教諭不足の部分があり、職員に心の余裕がなくなり一斉指導を行ってしまうところが多々あったため
	教育・保育理念及び目標と教育・保育要領の関係を理解し、教育課程、教育・保育の全体的な計画、及び子育ての支援計画に基づいて指導計画を立てているか	B	
	園児の人権に十分配慮し、園児一人一人の人格の尊重、個人差に配慮した教育・保育を行っているか	C	
	個人情報を適切に取り扱うとともに、保護者からの苦情に対し、その解決を図っているか	B	
	職員は就業規則などの諸規則を理解し、遵守しているか	B	

カテゴリ	評価項目	評価	備考欄
第1章　総　　則			
幼保連携型認定こども園における教育及び保育の基本及び目標等	乳幼児期の教育及び保育は、子どもの健全な心身の発達を図りつつ生涯にわたる人格形成の基礎を培う需要なものであることを知っているか	B	
	「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」第２条第７項に規定する目的及び第９条に掲げる目標を知っているか	C	
	上記の目的及び目標を達成するため乳幼児期全体を通して、その特性及び保護者や地域の実態を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とし、家庭や地域での生活を含めた園児の生活全体が豊かになるものとなるように努めているか	B	
	保育教諭等は、園児との信頼関係を十分に築き、園児が自ら安心して身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりするようになる幼児期の教育におけるみ方・考え方を生かし、その活動が豊かに展開されるよう環境を整え、園児と共により良い教育及び保育の環境を創造するよう努めているか	B	
	乳幼児期は周囲への依存を基盤にしつつ自立に向かうものであることを考慮して、周囲との信頼関係に支えられた生活の中で、園児一人一人が安心感と信頼感をもっていろいろな活動に取り組む体験を十分に積み重ねられるようにしているか	B	
	乳幼児期においては生命の保持が図られ安定した情緒の下で自己を十分に発揮することにより発達に必要な体験を得ていくものであることを考慮して、園児の主体的な活動を促し、乳幼児期に相応しい生活が展開されるようにしているか	B	
	乳幼児期における発達は、心身の諸側面が相互に関連し合い、多様な経過をたどって成し遂げられていくものであること、また、園児の生活経験がそれぞれ異なることなどを考慮して、園児一人一人の特性や発達の過程に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにしているか	B	十分な保育教諭の配置が難しい為、心に余裕のない保育になることも。毎日が反省の日々であるが、園児一人一人に合う指導を行うよう努めていきたい
	認定こども園は、生きる力の基礎を育成し、義務教育及びその後の教育の基礎を培うとともに、子どもの最善の利益を考慮しつつ、その生活を保証し、保護者と共に園児の心身ともに健やかに育成するものであることを知っているか	A	
	認定こども園において、生きる力の基礎を育むため、認定こども園の教育及び保育の基本を踏まえ、一体的に育むよう努める資質・能力の３本の柱を知っているか	B	・知識及び技能の基礎 ・思考力、判断力、表現力の基礎 ・学びに向かう力、人間性　等々

カテゴリ	評価項目	評価	備考欄
	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」１０項目について知っているか	A	
教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画等	認定こども園においては、教育基本法、児童福祉法、認定こども園法、その他の法令、教育・保育要領の示すところに従い、教育と保育を一体的に提供するため、園児の心身の発達と園、家庭、地域の実態に即応した適切な教育及び保育の内容、子育ての支援等に関する全体的な計画を作成することを知って	A	教育・保育要領に基づき、各年齢ごとに、短期から長期のカリキュラムを作成している
	全体的な計画とは教育と保育を一体的に捉え、園児の入園から終了までの在園期間の全体にわたり、園の目標に向かってどのような過程をたどって教育及び保育を進めていくかを明らかにするものであり、子育ての支援と有機的に連携し、園児の園生活全体を捉え、作成する計画であることを知っているか	A	
	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて全体的な計画を作成することを知っているか	A	PDCAサイクルにより全体的な質の向上を目指すようにしている
	カリキュラム・マネジメント、つまり全体的な計画の作成、実施、評価、改善によって園の教育及び保育活動の質の向上が図られているか	A	
	認定こども園の満３歳以上の園児の教育課程に係る教育週数は、特別の事情のある場合を除き、３９週を下回ってはならないこと、１日の教育課程に係る教育時間は、４時間を標準と知ることを知っているか	A	
	認定こども園においては、園長の方針の下に、園務分掌に基づき保育教諭等職員が適切に役割を分担しつつ、相互に連携しながら、全体的な計画や指導の改善を図っているか	C	雇用形態の違いにより、若干意識の差が見られる
	認定こども園が行う教育及び保育等の評価については、全体的な計画の作成、実施、改善が教育及び保育活動や園運営の中核となることを踏まえ、カリキュラム・マネジメントと関連付けながら実施するよう留意しているか	C	
	認定こども園においては、その教育及び保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、乳幼児期に相応しい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにしているか	B	乳幼児期は基本的生活習慣を身につけることに重点を置き、年齢が上がるごとに就学へつながるよう、個々に合わせた方向づけを行うようにしている
	認定こども園の教育及び保育において恵まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、認定こども園における教育及び保育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めている。	B	

カテゴリ	評価項目	評価	備考欄
教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画等	認定こども園における教育及び保育は、園児が自ら意欲をもって環境と関わることにより作り出される具体的な活動を通し、目標の達成を図るものであることを知っているか	B	意見を出し合い、計画を立て、個人に合った柔軟な指導を心掛けている
	認定こども園においては上記を踏まえ、乳幼児期に相応しい生活が展開され、適切な指導が行われるよう、調和のとれた組織的、発展的な指導計画を作成し、園児の活動に沿った柔軟な指導を行っているか	B	
	指導計画は、園児の発達に即して園児一人一人が乳幼児期に相応しい生活を展開し、必要な体験を得られるようにするために、具体的に作成しているか	A	個別指導計画を毎月立てている
	指導計画の作成に当たっては、具体的なねらい及び内容を明確に設定し、適切な環境を構成することなどにより活動が選択・展開されるようにしているか	C	行事前は余裕がなくなることが多々ある
	具体的なねらい及び内容は、園の生活における園児の発達の過程を見通し、園児の生活の連続性、季節の変化などを考慮して、園児の興味や関心、発達の実情などに応じて設定しているか	B	
	環境は、具体的なねらいを達成するために適切なものとなるように構成し、園児が自らその環境に係ることにより様々な活動を展開しつつ必要な体験を得られるようにしているか	A	様々な活動を展開できるような選択肢は用意している
	園児の行う具体的な活動は、生活の流れの中で様々に変化するものであることに留意し、園児が望ましい方向に向かって自ら活動を展開していくことが出来るよう必要な援助をしているか	B	
	長期的に発達を見通した年、学期、月などにわたる長期の指導計画やこれとの関連を保ちながらより具体的な園児の生活に即した週、日などの短期の指導計画を作成し、適切な指導が行われるようにしているか	A	
	園児が様々な人や物との関わりを通して、多様な体験をし、心身の調和のとれた発達が促されるようにし、園児の発達に即して主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）が実現するようにしているか	B	様々な場面で全員が主体的に活動できるよう心掛けている
	言語に関する能力の発達と思考力等の発達が関連していることを踏まえ、園における生活全体を通して、園児の発達を踏まえた言語環境を整え、言語活動の充実を図っているか	B	個別で関わったり発音の場を設けたりと、各々の言葉の獲得につながるよう工夫している
	小学校教育との円滑な接続のため、認定こども園の園児と小学校の児童との交流の機会を積極的に設けているか	A	

カテゴリ	評価項目	評価	備考欄
教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画等	指導の過程を振り返りながら園児の理解を進め、園児一人一人の良さや可能性などを把握し、指導の改善に生かすようにしているか	B	
	評価の妥当性や信頼性が高められるよう創意工夫を行い、組織的、計画的な取組を推進し、次年度や小学校等にその内容が適切に引き継がれるようにしているか	A	
	障害のある園児などへの指導に当たっては、集団の中で生活することを通して全体的発達を促していくことに配慮し、適切な環境の下で、他の園児との生活を通して共に成長できるよう、個々の園児の障害の状態などに応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行っているか	B	専門機関を利用している子は情報共有を行うようにしている
	また、家庭、地域及び医療や福祉、保健等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で障害のある園児への教育及び保育的支援を行うために、個別の教育及び保育支援計画を作成し活用すること、個々の園児の実態を的確に把握し、個別の指導計画を作成し活用することに努めているか	B	障害の有無に関係なく個別指導計画は立てている。障害がある子はその子に合わせたねらい・配慮を設定している
	海外から帰国した園児や生活に必要な日本語の習得に困難のある園児については、安心して自己を発揮できるよう配慮するなど個々の園児の実態に応じ、指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行っているか	B	分かり易い言葉を使ったり、保護者へ家庭での取り組みをアプローチしている
	入園した年齢より集団生活の経験年数が異なる園児がいることに配慮する等、０歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育を園児の発達や学びの連続性を考慮しているか	B	
	０歳から小学校就学前までの様々な年齢の園児の発達の特性を踏まえ、満３歳未満の園児については、特に健康、安全や発達の確保を十分に図っているか	A	
	同様に満３歳以上の園児については、同一学年の園児で編成される学級による集団活動の中で、遊びを中心とする園児の主体的な活動を通して発達や学びを促す経験が得られるよう工夫しているか	C	行事前は練習とカリキュラムをこなすのに精一杯になっている
	満３歳未満の園児については睡眠時間等の個人差に配慮するとともに、満３歳以上の園児については集中して遊ぶ場と家庭的な雰囲気の中でくつろぐ場と適切な調和等の工夫をしているか	B	生活の中に動と静を取り入れるように心掛けている
	満３歳未満の園児については、大人への依存度が極めて高い等の特性があることから、個別的な対応を図り、また、園児の集団生活への円滑な接続について、家庭等との連携及び協力を図る等十分留意しているか	B	保護者との連携は丁寧に行うようにしている

カテゴリ	評価項目	評価	備考欄
教育及び保育の内容並びに子育ての支援全体的な計画等に関する	園児の発達の連続性を考慮した教育及び保育を園介する際には、満３歳未満の園児については、園児一人一人の成育歴、心身の発達、活動の実態等に即して、個別的な計画を作成し、満３歳以上の園児の園児については、この成長と、園児相互の関係や協働的な活動が促されるよう考慮しているか	B	
	「生命の保持」について知っているか	A	
	「情緒の安定」について知っているか	A	
	認定こども園は主幹保育教諭を中心とした「子育ての支援」が必須であることを知っているか	A	
第2章　ねらい及び内容並びに配慮事項			
	第2章に示すねらいは認定こども園の教育及び保育において「育みたい資質・能力を園児の生活する姿から捉えたもの」、内容は「ねらいを達成するために指導する事項」、内容の取扱いは「園児の発達を踏まえた指導を行うに当たって留意すべき事項」であることを知っているか	B	
	各視点や領域は、この時期の発達の特徴を踏まえ、教育及び保育のねらい及び内容を乳幼児の発達の側面から、乳児は「三つの視点」として、幼児は「五つの領域」としてまとめ、示したものであることを知っているか	A	
	各視点や領域に示すねらいは、園における生活の全体を通じ「園児が様々な体験を積み重ねる中で相互に関連を持ちながら次第に達成に向かうもの」、内容は「園児が環境に係って展開する具体的な活動を通して総合的に指導されるもの」であることを知っているか	B	
乳児期の園児の保育に関するねらい及び内容	基本的事項としての乳児期の発達について知っているか	A	
	乳児期の領域「三つの視点」について知っているか	A	
	「健やかに伸び伸びと育つ」の意味、狙い、内容、内容の取扱いについて知っているか	B	
	「身近な人と気持ちが通じ合う」の意味、ねらい、内容、内容の取扱いについて知っているか	B	
	「身近な物と関わり感性が育つ」の意味、ねらい、内容、内容の取扱いについて知っているか	B	

カテゴリ	評価項目	評価	備考欄
満1歳以上満3歳未満の園児の保育に関するねらい及び内容	基本的事項としての満1歳以上満3歳未満の園児の発達の内容について知っているか	A	
	満1歳以上満3歳未満の「5領域」について知っているか	A	
	満1歳以上満3歳未満の「健康」の意味、ねらい、内容、内容の取扱いについて知っているか	B	
	満1歳以上満3歳未満の「人間関係」の意味、ねらい、内容、内容の取扱いについて知っているか	B	
	満1歳以上満3歳未満の「環境」の意味、ねらい、内容、内容の取扱いについて知っているか	B	
	満1歳以上満3歳未満の「言葉」の意味、ねらい、内容、内容の取扱いについて知っているか	B	
	満1歳以上満3歳未満の「表現」の意味、ねらい、内容、内容の取扱いについて知っているか	B	
満3歳以上の園児の教育及び保育に関するねらい及び内容	基本的事項としての満3歳以上の園児の発達の内容と「5領域」について知っているか	A	
	満３歳以上の「健康」の意味、ねらい、内容、内容の取扱いについて知っているか	B	
	満３歳以上の「人間関係」の意味、ねらい、内容、内容の取扱いについて知っているか	B	
	満３歳以上の「環境」の意味、ねらい、内容、内容の取扱いについて知っているか	B	
	満３歳以上の「言葉」の意味、ねらい、内容、内容の取扱いについて知っているか	B	
	満３歳以上の「表現」の意味、ねらい、内容、内容の取扱いについて知っているか	B	
教育及び保育の実施に関する配慮事項	乳児は疾病への抵抗力が弱く、疾病の発生が多いことから、一人一人の発育及び発達状態や健康状態についての適切な判断に基づく保健的な対応を行い、また、成育歴の違いに留意しつつ、欲求を適切に満たし、特定の保育教諭等が応答的にかかわるよう努めているか	A	
	乳児期の園児の保育においては特に、保護者との信頼関係を築きながら保育を進めるとともに、保護者からの相談に応じ支援に努めているか	A	

カテゴリ	評価項目	評価	備考欄
教育及び保育の実施に関する配慮事項	満1歳以上満3歳未満の園児は、特に感染症にかかりやすい時期であるので、身体の状態、機嫌、食欲などの日常の状態の観察を十分に行うとともに、適切な判断に基づく保健的な対応を心掛けているか	A	看護師にみせ、専門的なアドバイスをもらいながら対応している
	満1歳以上満3歳未満の園児は、自我が形成され、園児が自分の感情や気持ちに気付くようになる重要な時期であることから、情緒の安定を図りながら、園児の自発的な活動を尊重するとともに促しているか	A	
	園児の心身の発達及び活動の実態などの個人差を踏まえるとともに、一人一人の園児の気持ちを受け止め、援助しているか	A	
	園児が自ら周囲に働きかけ、試行錯誤しつつ自分の力で活動を見守りながら、適切に援助しているか	B	
	園児の国籍や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるようにし、また、園児の性差や個人差にも留意しつつ、性別などによる固定的な意識を植え付けることがないようにしているか	C	園のルールに逸脱している行為は受け入れ難い
第3章　健康及び安全			
健康支援	園児の心身の状態に応じた教育及び保育を行うために、園児の健康状態や発育及び発達の状態について、定期的・継続的に、また、必要に応じて随時、把握しているか	A	
	園児の心身の状態等を観察し、不適切な養育の兆候が見られる場合には、市町村や関係機関と連携し、児童福祉法第25条に基づき、適切な対応を図っているか。虐待が疑われる場合には、速やかに市町村又は児童相談所に通告し、適切な対応を図っているか	A	
	学校保健計画を作成する際は、全体的な計画に位置づくものとし、全ての職員がその由来や内容を踏まえ、園児一人一人の健康の保持及び増進に努めているか	B	
	感染症やその他の疾病の発生予防に努め、その発生や疑いがある場合には必要に応じて学校医、市町村、保健所等に連絡し、その指示に従うとともに、保護者や全ての職員に連絡し、予防等について協力を求めることを知っているか	A	
	アレルギー疾患を有する園児に関しては、保護者と連携し、医師の診断及び指示に基づき、適切な対応を行うとともに、食物アレルギーに関して、関係機関と連携して、自園の体制構築など、安全な環境の整備を行っているか	A	

カテゴリ	評価項目	評価	備考欄
食育の推進	認定こども園における食育は、健康な生活の基本としての食を営む力の育成に向け、その基礎を培うことを目標とし、園児が生活と遊びの中で、意欲をもって食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しみ合う園児に成長していくことを期待するものであることを知っているか	B	
	乳幼児期に相応しい食生活が展開され、適切な援助が行われるよう、全体的な計画に基づき、食事の提供を含む食育の計画を作成し、指導計画に位置付けるとともに、その評価及び改善に努めているか	C	食育計画は作成しているが、野菜の栽培が昨今の気象変化により収穫までには至っていない
環境及び衛生管理並びに安全管理	学校環境衛生基準（認定こども園法第２７条・学校保健安全法第６条参照）に基づき認定こども園の適切な環境の維持、施設内外の設備、用具等の衛生管理に努め、園児及び全職員が清潔を保つとともに、職員は衛生知識の向上に努めているか	B	できる範囲内で、職員みんなで良く取り組んでいると思う。
	事故防止の取組を行う際には、特に、睡眠中、プール活動・水遊び中、食事中等の場面では重大事故が発生しやすいことを踏まえ、園児の主体的な活動を大切にしつつ、施設内外の環境の配慮や指導の工夫を行うなど、必要な対策を講じているか	B	プール活動時には必ずプールの外から１名は監視する職員を置くように努め、事故防止に努めている
	危険等発生時対処要領（認定こども園法第２７条・学校保健安全法第２９条参照）に基づき、事故の発生に備えるとともに施設内外の危険個所の点検や訓練を実施し、また、外部からの不審者等の侵入防止のための措置や訓練など不測の事態に備え必要な対応を行っているか	C	不審者対応訓練に関しては、計画を密に行い子どもたちを守ることを念頭においた繰返しの訓練の必要性を感じる
災害への備え	災害の章が新設されたことを踏まえ、危険等発生時対処要領に基づき、災害等の発生に備えるとともに、防火設備、避難経路等の安全が確保されるよう、定期的にこれらの安全点検を行っているか	A	
	火災や地震などの災害の発生に備え、危険等発生時対処要領を作成する際には、緊急時の対応の具体的内容及び手順、職員の役割分担、避難訓練計画等の事項を盛り込み、定期的に避難訓練を実施するなど、必要な対応を図っているか	B	職員の役割分担の再確認を行い子どもたちの誘導をスムーズに行えるよう努めている。
	災害の発生時に、保護者への連絡及びこどもの引き渡し方法等について確認をしているか	C	要、検討事項
第４章　子育ての支援			
子育ての支援	教育及び保育、子育ての支援に関する知識や技術など、保育教諭等の専門性や、園児が常に存在する環境など、認定こども園の特性を生かし、保護者が子供の成長に気付き子育ての喜びを感じられるように努めているか	B	子育て相談日を設けている。特定の子育て支援の職員を置くことにより、心を開き悩みや困りごとを気軽に話せる雰囲気に努めている。

カテゴリ	評価項目	評価	備考欄
園児の保護者に対する子育て支援	日常の様々な機会を活用し、園児の日々の様子の伝達や収集、教育及び保育の意図の説明などを通じて、保護者との相互理解を図るよう努めているか	B	日々の様子などは連絡帳にて知らせたり、クラス便りや写真を撮り保護者の目につくところに掲示している
	教育及び保育の活動に対する保護者の積極的な参加は、保護者、地域における家庭や住民ら、保護者の参加を促すとともに、参加しやすいよう工夫しているか	B	保護者がなるべく参加できるよう、土曜日に開催するようにしている
子育て家庭の保護者等に対する支援	自園が持つ地域性や専門性などを十分に考慮して、その地域において必要と認められるものを適切に実施しているか	B	
	認定こども園として、地域の子供が健やかに育成される環境を提供し、保護者に対する子育ての支援の総合的な提供を推進するため、地域における乳幼児期の教育及び保育の中心的な役割を果たすよう努めることを知っているか	B	

成果及び今後取り組んでいく課題

全評価項目中、91.1%が達成している（できている）であり、8.9%が検討を要す、改善を要するが0%であった。

カテゴリ別に見ると、概ね園全体として今年度の教育・保育の目標や活動、行事の内容及び運営は目標に沿って行われていたと思料する。「健康・安全」については、一部検討を要する事項（不審者対応訓練及び災害時における園児の保護者への引き渡し計画・訓練等）について、更なる計画の策定及び訓練内容の充実を図っていきたい。

カテゴリ別（%）

項目	A	B	C	項目	A	B	C	項目	A	B	C
園の基本姿勢	20	60	20	乳児保育	40	60	0	教育・保育の配慮事項	71	14	14
教育及び基本・目標等	11	78	11	3歳未満児保育	29	71	0	健康・安全	38	38	23
教育及び保育の内容、計画	43	46	11	3歳以上児保育	17	83	0	子育て支援	0	100	0